GHGプロトコル改定の全体像と
スコープ1・3改定の方向性

サステナブルな経営の未来を、支えつづける。

Zeroboard

株式会社ゼロボード　｜　GHGプロトコル専門作業部会（TWG）メンバー
ゼロボード総研 所長　待場　智雄

2025年11月25日

Zeroboard

00

自己紹介

© 2024 Zeroboard Inc.

自己紹介

待場 智雄

ゼロボード総研　所長

朝日新聞記者を経て渡英、以来国際的に企業・政府のサステナビリティ戦略対応支援に携わる。

グローバル・リポーティング・イニシアティブ（GRI）国際事務局でガイドライン改訂等に携わり、OECD科学技術産業局でエコイノベーション政策研究をリード。

国際再生可能エネルギー機関（IRENA）で世界各地の再エネ技術データのナリッジマネジメント担当、アラブ首長国連邦（UAE）政府で気候変動対応の戦略・政策づくりを行う。

国連気候技術センター・ネットワーク（CTCN）副所長として途上国への技術移転支援を担い、2021年に帰国。ERMにて脱炭素・ESG担当パートナーを務める。

2023年8月よりゼロボード総研所長。

上智大学文学部新聞学科卒、英サセックス大学国際開発学研究所修士取得。

© 2024 Zeroboard Inc.

国際基準・政策形成への参加

GHGプロトコル 専門作業部会（TWG）メンバー

GHG排出量算定方法の基本をつかさどるGHGプロトコルCorporate Standardの20年ぶりの改訂WGに参加し、Scope 3の算入方法論などの議論に貢献。

グローバル・サステナビリティ基準審議会（GSSB）理事

グローバル・リポーティング・イニシアティブ（GRI）の独立審議機関で、財務報告とサステナビリティ報告が同等に行われる企業開示システムの実現へ向け、GRIスタンダードの開発、改善を支援。

GRI COMMUNITY MEMBER 2025

GSSB

© 2024 Zeroboard Inc.

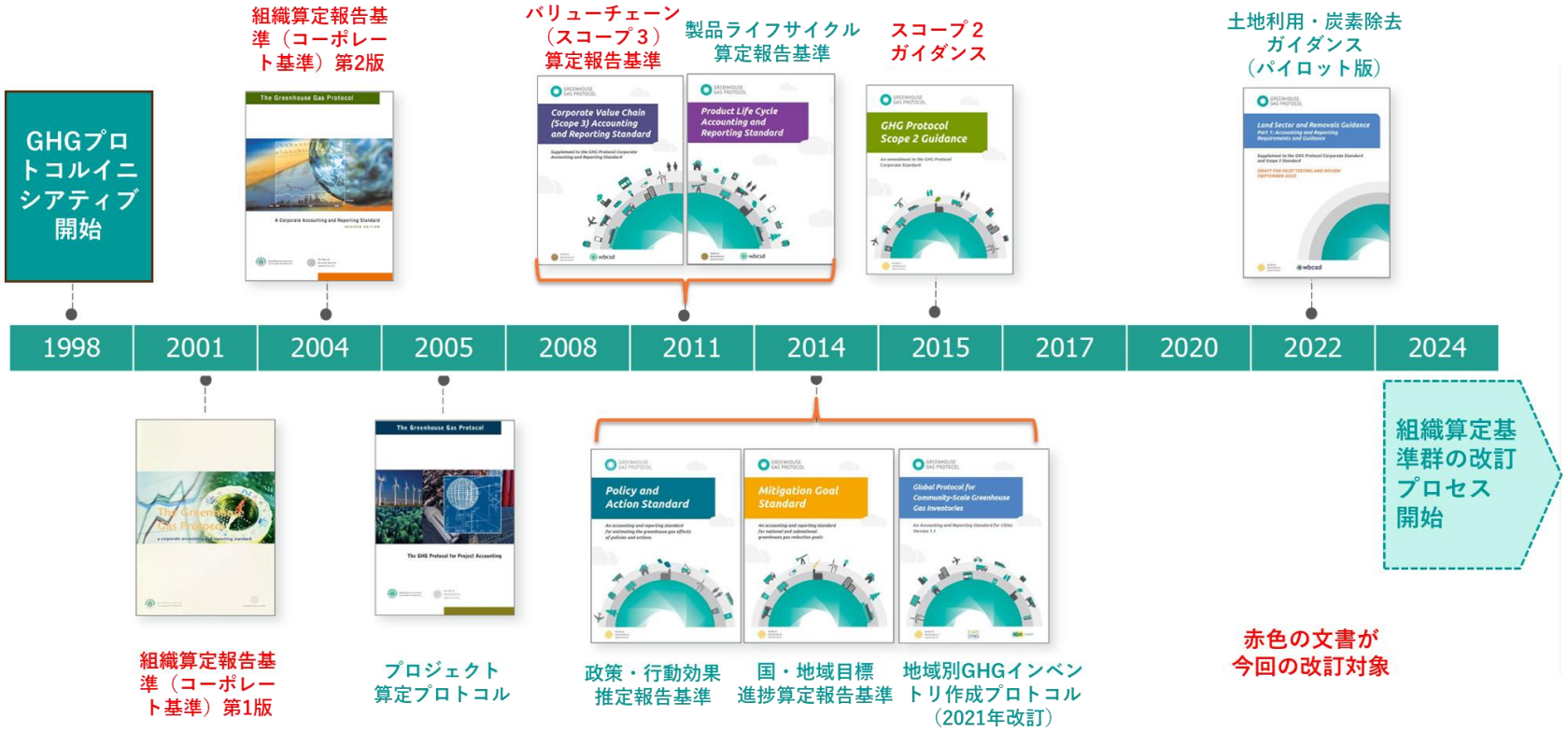
Zeroboard

01

GHGプロトコル改定の背景とプロセス

© 2024 Zeroboard Inc.

GHGプロトコル開発の歴史



GHGプロトコルTWG資料（2024年9月30日）からゼロボード作成

© 2024 Zeroboard Inc.

各基準・フレームワークの関係性

出典: Global Reporting Initiative

© 2024 Zeroboard Inc.

組織排出量算定の範囲

温室効果ガス排出量の算出・報告は「GHGプロトコル」に基づき、自社の直接排出・間接排出を計上する範囲 (Scope 1, 2)と、自社の商品・サービスに関連した他社の排出を計上する範囲 (Scope 3)がある。

上流

Scope 3

(1)原材料

(2)資本財

(3)エネルギー関連

(4)輸送・配送

(5)廃棄物

(6)出張

(7)通勤

(8)リース

自社

Scope 1

事業者自らによる温室効果ガスの直接排出

燃料の燃焼・工業プロセス

Scope 2

他社から供給されたエネルギー使用による間接排出

電気、熱・蒸気の使用

下流

Scope 3

(9)輸送

(10)加工

(11)使用

(12)廃棄

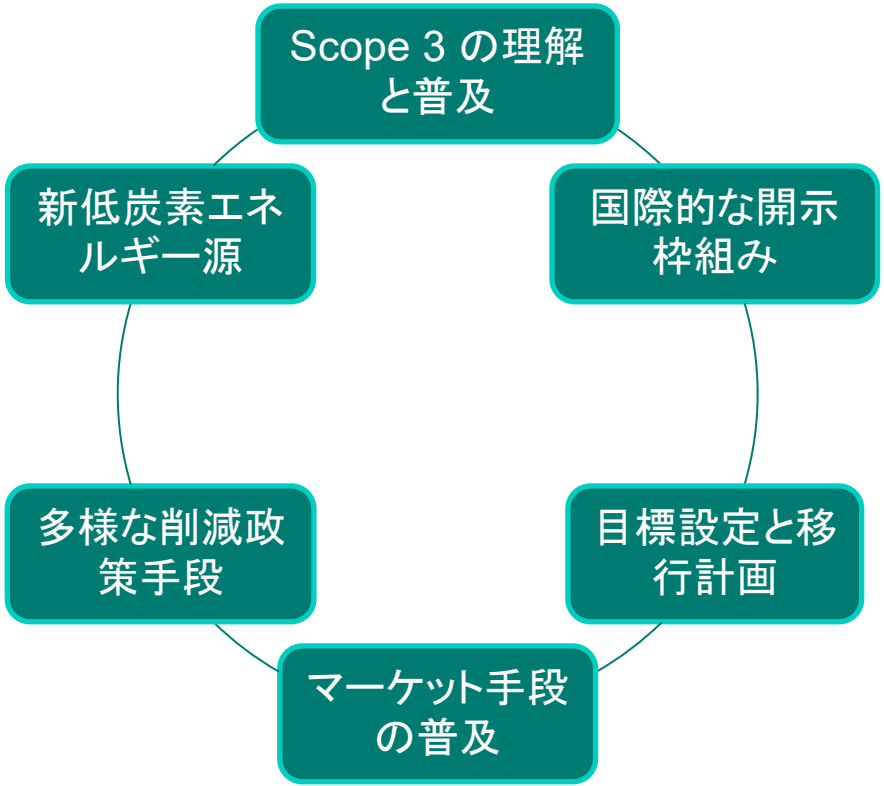
(13)リース

(14)フランチャイズ

(15)投資

© 2024 Zeroboard Inc.

GHG排出量算定をめぐる環境の変化



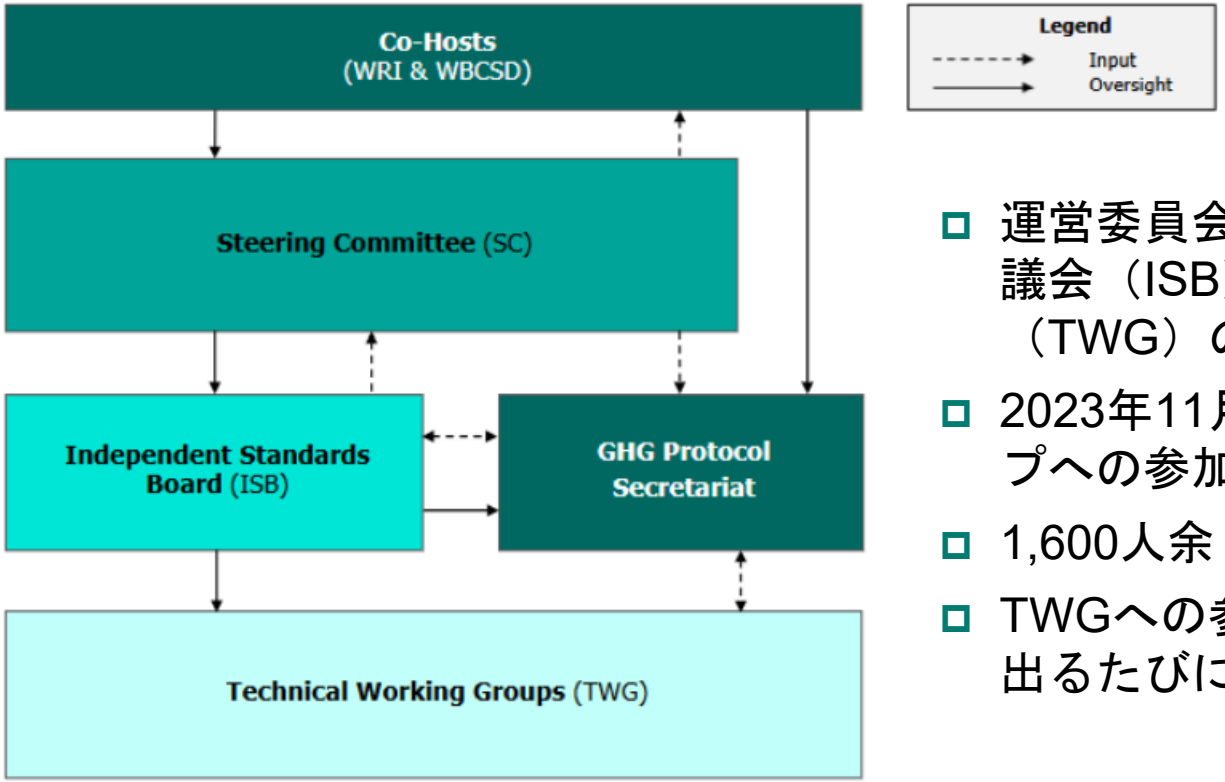
GHGプロトコル事務局が2022年11月～2023年3月にグローバルなステークホルダー調査を実施。

数百名から各基準に対するコメントと数十の具体的な改定提案も寄せられた。

 参考: Greenhouse Gas Protocol, *Scope 3 Standard – Standard Development Plan*

© 2024 Zeroboard Inc.

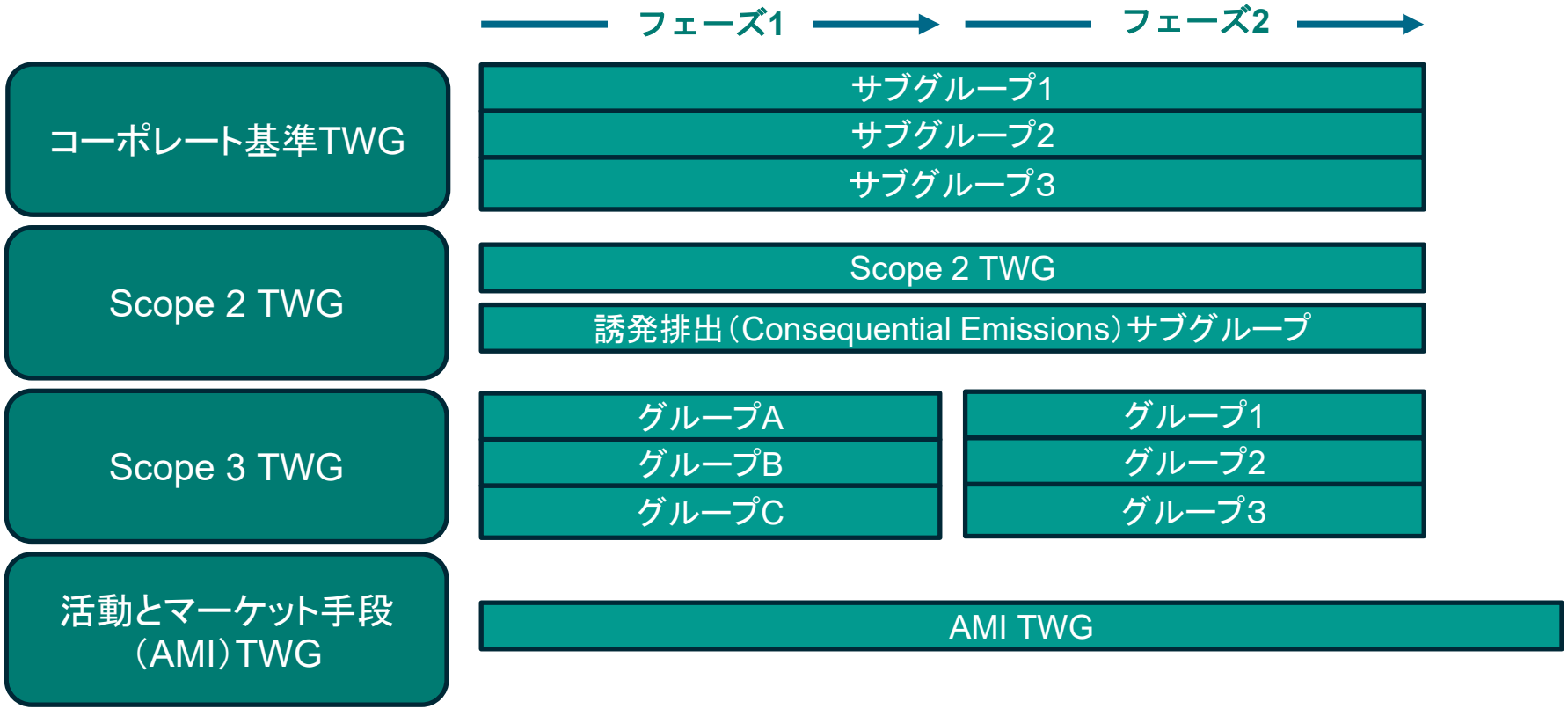
ステークホルダー参画ガバナンス



- 運営委員会（SC）、独立基準審議会（ISB）、専門作業部会（TWG）の3層構造
- 2023年11月～24年1月に各グループへの参加者募集
- 1,600人余りが応募
- TWGへの参加はその後も空席が出るたびに回転ベースで募集

出典:Greenhouse Gas Protocol. *Governance Overview*, November 2024.
© 2024 Zeroboard Inc.

4つの専門作業部会（TWG）と2つのフェーズ



※もう一つ「**森林炭素算定TWG**」があるが、今回の組織算定プロトコル改定の流れとは別と考え、ここでは言及しない。

出典:Greenhouse Gas Protocol, *Standard Development and Revision Procedure*, November 2024.

© 2024 Zeroboard Inc.

各TWGの議論トピック（当初）

TWG	グループ	フェーズ1	フェーズ2
コーポレート基準	サブグループ1	• 目的と原則	• 経年追跡・比較
	サブグループ2	• 組織バウンダリー	• 検証・保証
	サブグループ3	• 事業バウンダリー	• データ・算定方法
Scope 2	Scope 2	• ロケーション・マーケット基準の改善 • プロジェクトベース算定の位置付け • 市場地域差に関するガイダンス	• Scope 3との相互作用 • 購入熱のガイダンス • 電力会社固有のガイダンスと送配電ロスの明確化 • データプロバイダーへのガイダンス • 技術固有のガイダンス
	結果算定サブグループ	• 結果排出算定の原則 • 電力セクターにおける結果排出算定の役割と影響	

出典:Greenhouse Gas Protocol, Standard Development Plans.

© 2024 Zeroboard Inc.

各TWGの議論トピック（2）

TWG	グループ	フェーズ1	フェーズ2
Scope 3	グループ A/1	• データ品質と算定方法	• 購買物・サービス（カテゴリー1）、燃料・エネルギー関連活動（カテゴリー3）、事業で生成される廃棄物（カテゴリー5）、販売物の最終処理（カテゴリー12）
	グループ B/2	• バウンダリー、マテリアリティ、目標設定、指標、リース資産（カテゴリ8, 13）	• 上流の交通・流通（カテゴリー4）、出張（カテゴリー6）、従業員通勤（カテゴリー7）、下流の交通・流通（カテゴリー9）
	グループ C/3	• 投資（カテゴリー15）、フランチャイズ（カテゴリー14）	• 資本財（カテゴリー2）、販売品の加工（カテゴリー10）、販売品の使用（カテゴリー11）
活動とマーケット手段（AMI）		• AMIの必要要素と定量化	• 新基準もしくはガイダンスの完成・統合

出典:Greenhouse Gas Protocol, Standard Development Plans.

© 2024 Zeroboard Inc.

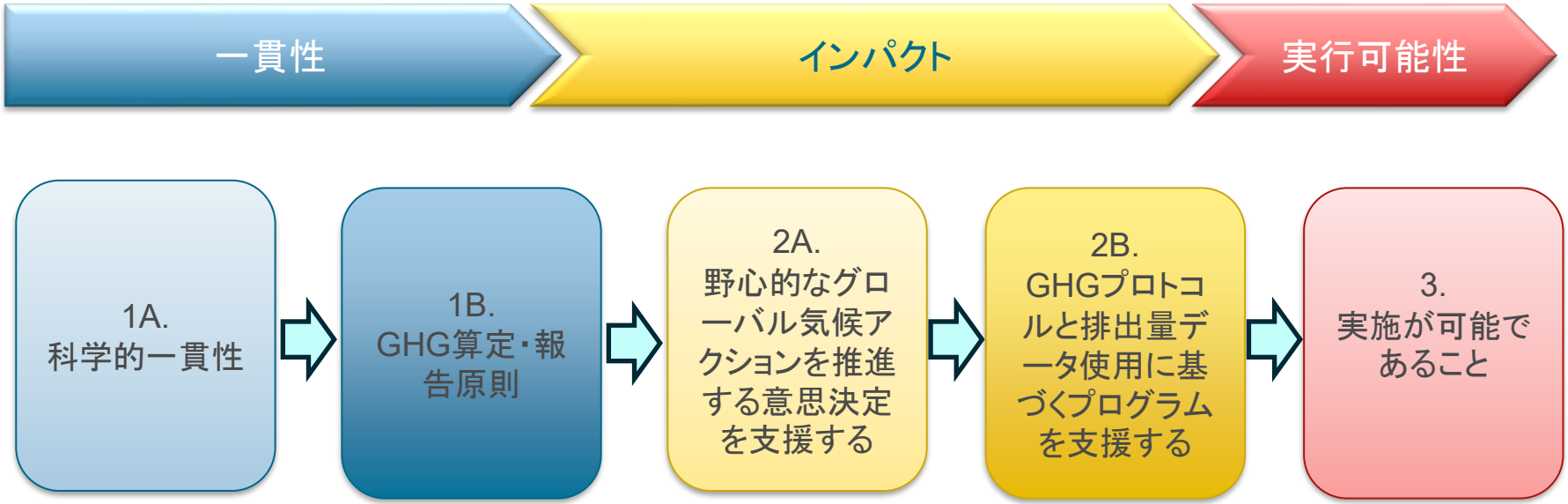
日本からの参加メンバー

運営委員会（SC）	Green Impact Labs CEO 馬場 渉 氏
コーポレート基準TWG サブグループ3	ゼロボード総研 所長 待場 智雄
Scope 2 TWG	自然エネルギー財団 シニアマネージャー 高瀬 香絵 氏
行動・マーケット手段 （AMI）TWG	日本鉄鋼連盟 技術・環境部 マネジャー 川又 広実 氏

© 2024 Zeroboard Inc.

議論・決定のための原則

すべてのガバナンス・助言組織は下記の3レベルの意思決定階層に従って議論を進め、
ISBとSCによって最終承認される。



出典:Greenhouse Gas Protocol, *Standard Development and Revision Procedure*, November 2024.

© 2024 Zeroboard Inc.

議論・採決方法

いくつかのオプションと事前評価が事務局から示され、チャタムハウスルールの下、メンバー間で議論の後に採決。特定のオプションへの支持が大半になるまで、議論と採決を繰り返す。

Illustrative example	Option A: Name	Option B: Name	Option C: Name
1A. Scientific integrity	• Pros • Cons	• Pros • Cons	• Pros • Cons
1B. GHG accounting and reporting principles	• Pros • Cons	• Pros • Cons	• Pros • Cons
2A. Support decision making that drives ambitious global climate action	• Pros • Cons	• Pros • Cons	• Pros • Cons
2B. Support programs based on GHG Protocol and uses of GHG data	• Pros • Cons	• Pros • Cons	• Pros • Cons
3. Feasibility to implement	• Pros • Cons	• Pros • Cons	• Pros • Cons

改定議論の全経緯は、各TWGの会合記録として
https://ghgprotocol.org/standards-development-and-governance-repository で公開。

 出典:Greenhouse Gas Protocol, *Standard Development and Revision Procedure*, November 2024.

© 2024 Zeroboard Inc.

改訂作業の全体スケジュール

現在フェーズ1の議論がほぼ終了し、ISBの結果承認待ちの状況。Scope 2 はISBの承認で一次成果をパブコメにかける。AMIの議論を統合する必要性があり、かつパイロットテスト等も行われるため、改定版完全実施は2030年頃か。

	2025				2026				2027				2028			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
コーポレートスタンダード TWG																
TWG・ISB・SC作業			ドラフトサマリ				修正		・・承認・・			最終版				
パブコメ						①										
スコープ2 TWG			★報告・算定技術など				★Sc.3との相互作用、熱購入など									
TWG・ISB・SC作業			①ﾄﾞﾗ		①修正	②ﾄﾞﾗ	②修正		・・承認・・			最終版				
パブコメ				①		②										
スコープ3 TWG																
TWG・ISB・SC作業				ドラフトサマリ				修正			承認	最終版				
パブコメ							①									
AMI TWG				★目的・構造など						★報告要素など						
TWG・ISB・SC作業				①ﾄﾞﾗ						②ﾄﾞﾗ		修正		承認	・・	最終版
パブコメ				①							②					

出典: 経産省・環境省「GHG Protocol改訂のためのタスクフォース第3回会合」用資料、みずほリサーチ＆テクノロジーズ

© 2024 Zeroboard Inc.

Zeroboard

02

コーポレート基準TWG－フェーズ1の議論

© 2024 Zeroboard Inc.

フェーズ1の議論方向性

目的と原則（サブグループ1）

- 基準の目的声明を明確化 [合意]
- 関連性（relevance）原則を修正しマテリアリティとの関係を明確化 [多数支持]
- 一貫性（consistency）原則を企業間にも適用し比較可能性（comparability）を強調 [多数支持]
- 正確性（accuracy）原則に保守性（conservativeness）を組み込む [多数支持]
- 透明性（transparency）原則に検証可能性（verifiability）を組み込むまたは別途原則を付加 [追加か付加かで意見分かれる、ISB未審議]

組織バウンダリー（サブグループ2）

- 3通りある組織バウンダリーの設定方法のうち、持分比率アプローチ（equity share approach）は基本的に廃止（財務管理アプローチに統合）。残る2つの選択制は維持。
- 財務管理アプローチ（financial control approach）は財務報告のバウンダリーと一致させる
- 財務報告では連結しているが完全所有でない投資先の排出量は、別途報告（持分で分ける）を推奨
- 米GAAPやIFRS上での持分法投資先など一部所有権はあるが財務的に所有していない組織や事業（非連結投資先、共同事業、JVなど）の排出量はScope 1, 2に含めずScope 3 Category 15に算入する [以上合意、テキストをドラフト中]

 出典:Greenhouse Gas Protocol, .*Corporate Standard Technical Working Group, meeting presentations.*

© 2024 Zeroboard Inc.

フェーズ1の議論方向性（2）

組織バウンダリー（サブグループ2）一続き

- 事業管理アプローチ（operational control approach）の定義を全面的に見直し
- 事業方針のコントロールでなく、GHG排出に対するコントロールが重要
- しかし、コントロールの評価が主観的、組織・資産レベルのどちらで評価するのかあいまいだとして、テキスト改訂の議論継続中

事業バウンダリー（サブグループ3）

- スコープ3の義務報告範囲を「少なくともスコープ3全排出量の95%」の報告に変更 [多数支持]
- 上記の報告除外対象にSBTiネットゼロ基準第2版のBカテゴリー企業※を採用 [多数支持、ISB未審議]
- 除外対象の報告範囲を「最も関連ある3カテゴリーの排出量」とする [多数支持、ISB未審議]
- GHGプロトコルへの「適合」を上記2レベルに定める [多数支持、ISB未審議]
- Scope 1, 2については、スコープごとの全排出量を算定し、各その1%までの報告除外を認める [多数支持、ISB未合意]

※年間売上5,000万ドル、収益2,500万ドル、従業員250人未満の2つを満たしかつScope 1, 2排出量1万tCO2未満の企業。低中所得国においては、年間売上4億5000万ドル、収益2,500万ドル、従業員1,000人未満の2つを満たす企業

 出典:Greenhouse Gas Protocol, .*Corporate Standard Technical Working Group meeting presentations.*

© 2024 Zeroboard Inc.

フェーズ2の議論ーScope 1におけるデータ品質（サブグループ3）

- Scope 3 TWGのデータ品質に関する議論（後述）を土台に
- 他の開示基準
  - Scope 1, 2: IFRS, ESRS, GRIはデータソース、算定方法、前提条件の開示; SBTi CNZS 2.0案はデータ品質の向上を求める
  - Scope 3: IFRS, GRIはサプライヤーからのデータ使用割合; ESRS, SBTiは高品質データの優先を求める
  - 直接排出インベントリー: IPCC, EPA, EU ETSはデータの特異性（算定方法・ソース）と不確実性を基に格付けを行い評価する
- GHGプロトコルにおけるScope 1格付けの導入案…算定結果に対しデータレベルの割合を開示（Scope 3 TWGの議論を援用）
  - Tier 4: 直接計測データ（直接計測もしくは燃料のエネルギー・炭素含有量）
  - Tier 3: 固有係数データ（重量・容量や化学・物理モデリングに基づく）
  - Tier 2: 非固有係数データ（産業平均、距離、推定に基づく）
  - Tier 1: 金額ベース係数データ（産業連関表に基づく）
  - 特定できないデータ
- データ不確実性評価の要求: 系統性マトリックスアプローチ、Gaussian法など

 出典:Greenhouse Gas Protocol, .*Corporate Standard Technical Working Group meeting presentations.*

© 2024 Zeroboard Inc.

Zeroboard

03

Scope 3 TWG－フェーズ1の議論

© 2024 Zeroboard Inc.

フェーズ1の議論

グループA

報告に関する要件

- Scope 3インベントリーは「固有係数」「非固有係数」「金額ベース係数」3レベルにデータ品質を区分けして表示 [多数支持]
- 検証を受けたデータは数字の横に「＋」で表示 [合意]
- データの不確実性評価の推奨 [多数支持]

インプットデータに関する要件と内部記録

- 活動データソース、排出係数ソース、算定方法、配分方法、地球温暖化係数（GWP）、前提条件のソースの開示義務
- システムバウンダリー（除外範囲の設定含む）、基準年・地域・技術に関するメタデータの記録（開示の必要はなし）[上記合意]

データ品質向上に関する推奨

- 完全性の高いデータ使用（5%未満の除外）
- 不確実性評価の実施および完全性レベル、データ品質評価、妥当性評価プロセスと証明、検証レベルの表示
- 排出係数は輸出入を地域モデルに組み込むこと [上記合意]

 出典: Greenhouse Gas Protocol, *Scope 3 Technical Working Group, Group A, Meeting 11, Phase 1 wrap-up*, 17 July 2025.

© 2024 Zeroboard Inc.

フェーズ1の議論（2）

グループA（続き）

データ品質向上に関する推奨（続き）

- 固有係数の最低使用割合の設定、固有係数使用割合、固有係数を提供するバリューチェーンパートナーの割合の開示 [多数支持]
- データ品質向上に関する目標（年ごともしくは中期的）の設定 [合意]

配分

- 企業レベルのデータ配分は、均一な（多分野の事業を行わない）バリューチェーン上のパートナーに限る [合意]
- 配分が不可避の場合は、物理的または経済的な方法を認める（現行規定を維持）[合意]
- 製品・サービス・機能などの置き換えによるシステムの拡大は認めない（削減貢献量にあたるため）[多数支持]

 出典: Greenhouse Gas Protocol, *Scope 3 Technical Working Group, Group A, Meeting 11, Phase 1 wrap-up*, 17 July 2025.

© 2024 Zeroboard Inc.

フェーズ1の議論（3）

グループB

Scope 3の要件

- 各カテゴリーの最低要求バウンダリー（現行基準のTable 5.4で定義）に基づくScope 3全排出量の95%以上を算定・開示 [多数支持]
- 除外を正当化するために最低要求バウンダリーに基づくScope 3全排出量を算定すること [多数支持]
- 除外を正当化するための主要排出源を特定するホットスポット分析のガイダンスを提供 [合意]

除外の正当化

- 要求されるScope 3排出量の除外を開示し正当化する必要 [合意]
- 極小排出源（例: ホチキスの針）を5%未満の除外範囲の一部として算入しなくてもよい [多数支持]
- 関連する排出がないカテゴリーはN/A（該当なし）、5%未満の一部として除外したカテゴリーはX（除外）と表示 [合意]
- 最低要求バウンダリーの排出量と任意範囲の排出量を分けて報告 [多数支持]
- 中間製品の下流排出量の推定が不可能な場合、カテゴリー9, 10, 11, 12から除外してよい。これは5%未満の除外範囲に含めない。ただし、除外の開示と正当化は必要 [多数支持、無投票多]

 出典: Greenhouse Gas Protocol, *Scope 3 Technical Working Group, Full TWG Meeting 4* presentation, 5 June 2025; Group *B, Meeting 10 presentation*, 24 July 2025; ;

© 2024 Zeroboard Inc.

フェーズ1の議論（4）

グループB（続き）

関連性（relevance）原則ー省略

仲介排出量（facilitated emissions）

- 仲介活動（facilitated activity）とは、報告組織が経済価値を生成する製品・サービス・インフラにより可能となる第三者（報告組織が所有もしくは直接操業しない）の活動・製品・排出源を指す
- Scope 1, 2, 3のどれにも該当しない仲介活動を任意のScope 3 カテゴリー16とする
- カテゴリー16を報告する場合、仲介活動のライフサイクルにわたる全排出量の算定を推奨
- 仲介活動の種別ごとに分けて開示する必要 [上記すべて多数支持]

 出典: Greenhouse Gas Protocol, *Scope 3 Technical Working Group, Full TWG Meeting 4* presentation, 5 June 2025; Group *B, Meeting 10 presentation*, 24 July 2025; ;

© 2024 Zeroboard Inc.

フェーズ1の議論（5）

グループC

カテゴリー15（投資）

- 依然、金融機関（FI）、非金融機関（non-FI）の双方に適用される。言語と適用対象を明確化。
- 金融機関はカテゴリー15全投資タイプ（Table 5.9, 5.10）の排出量を報告。非金融機関はマテリアリティによりカテゴリー15の算入可否を決める [多数支持]
- PCAFとの一致を重要視する。PCAFに合わせ、組織バウンダリーの設定に関して持分比率（equity share）アプローチを廃止 [CS TWG合意, ISB審議待ち]
- PCAFのデータスコアリングは採用せず。別途、データ品質レベルの開示は必要（スコアリングの提供は未定）。カバーする排出量の割合、カバーする投資の割合の開示推奨 [多数支持]
- グループBの議論に従い、投融資排出量（financed emissions）以外をカテゴリー16とする（後述）
- カテゴリー15がScope 3全排出量の5%未満の場合は除外可能。カテゴリー16新設の場合も同様 [多数支持]
- 株式投資についてはPCAFに合わせ、分母に株式と負債を含めるように比例配分を調整 [多数支持]
- プロジェクトファイナンスの算入義務。ファイナンスした年にライフタイムの排出量を算入。スコープ3とは切り分けて、ライフタイム排出量を各年報告 [多数支持]

 出典: Greenhouse Gas Protocol, *Scope 3 Technical Working Group, Group C, Meeting 8 presentation*, 17 April 2025.

© 2024 Zeroboard Inc.

フェーズ1の議論（6）

グループC

カテゴリー15（投資）ー続き

- 投資事業における無限責任組合員（general partner）と有限責任組合（limited partnership）の排出量配分の明確化
- コモディティの明確化
  - 投資・投機対象で購入した物をここに含む。消費のための購入はカテゴリー1。同じ物でも目的により配分する。Cradle-to-Gateを算定。エネルギー関連はCradle-to-Grave。
  - 仮想通貨などトークンはその生成にかかる排出、データインフラのScope 1, 2を算入
  - 上場株式投資（ETF）、指標連動証券（ETN）はカテゴリー15
  - 店頭（OTC）デリバティブ、先物契約はデリバティブとしてカテゴリー16に
- 売り持ちポジション（short positions）はカテゴリー16に

カテゴリー14 （フランチャイズ）

- ブランドや知的財産（IP）のライセンスから生じる排出量を含む
  - 使用許諾者は、被許諾者が使用許諾者のIPに依存または使用して製造・販売する製品・サービスに起因するScope 1, 2, 3排出量をロイヤルティベースの割合で算入する必要

 出典: Greenhouse Gas Protocol, *Scope 3 Technical Working Group, Group C, Meeting 8 presentation*, 17 April 2025; *Meeting 11 presentation*, 31 July 2025.

© 2024 Zeroboard Inc.

カテゴリー16

コード	金融活動・サービス
16.1	**保険**
16.1.1	保険関連（PCAFパートC）
16.1.2	保険金支払い関連
16.2	**引受および発行**（PCAFパートB）
16.3	**その他の金融活動およびサービス**
16.3.1	助言された投資
16.3.2	労働者への報酬（年金、退職金など）
16.3.3	保険料支払い
16.3.4	現金預金
16.3.5	現金寄付
16.3.6	デリバティブ
16.3.7	ショートポジション

 出典: *Scope 3 Technical Working Group, Group C, Meeting 11 presentation*, 31 July 2025. およびGHGプロトコル事務局からの情報

© 2024 Zeroboard Inc.

カテゴリー16

コード	金融活動・サービス
16.4	ライセンス供与
16.5	燃料および／またはエネルギーの供給業者
16.6	その他の仲介活動（facilitated activity）
	ブローカーによる商品または資産
	予約／旅行代理店
	決済システム
	再販目的で購入した電力またはエネルギー
	第四者物流（4PL）プロバイダー
	第三者製品の輸配送
	石油・ガスパイプライン事業者
	広告
	デビットカード取引

 出典: *Scope 3 Technical Working Group, Group C, Meeting 11 presentation*, 31 July 2025. およびGHGプロトコル事務局からの情報

© 2024 Zeroboard Inc.

フェーズ2議論の焦点

購買製品・サービス（カテゴリー1）

- 新品、中古品、リサイクル品、回収品での素材・エネルギー関連排出量を区分する（カテゴリー11と連携）

資本財（カテゴリー2）

- 算入する固定資産の種類を明確化
- 減価償却、償却、年換算などの算定方法の取り込み

交通と輸送（カテゴリー4, 9）

- 上流・下流活動について「誰が払うか」による算入基準の可否
- ラストマイル、帰路輸送の算入必須化（現在は任意）

廃棄物処理・製品の最終処分（カテゴリー5, 12）

- 廃棄物輸送の算入必須化
- 製品の長寿命化に関するガイダンス提供
- リサイクル・再利用・アップサイクル・回収製品および素材の算入ルールのレビュー（カテゴリー1と連携）
- 廃棄物発電の排出量に関する要件設定

出張（カテゴリー6）

- ホテル宿泊の算入必須化
- 多種イベント、タクシー、カーリース、出張に伴う資本財からの排出量算入特定化

 出典:Greenhouse Gas Protocol, . *Scope 3 Standard – Standard Development Plan*, 20 December 2024.

© 2024 Zeroboard Inc.

フェーズ2議論の焦点（2）

従業員の通勤（カテゴリー7）

- リモートワークの算入必須化（現在は任意）と算定ガイダンスの提供
- 自己所有・リース・社管理車、払い戻しされる通勤などに関するガイダンス提供

リース資産（カテゴリー8, 13）

- リース製品の算入必須化もしくはガイダンス（CS TWGと連携）
- 借主のScope 3の貸主排出量への算入必須化もしくはガイダンス

販売品の加工と使用（カテゴリー10, 11）

- サブカテゴリーの設定（製品・サービス、中間・最終製品など）
- 使用段階での直接・間接排出の区別
- 中間・最終製品に起因するエネルギー損失からの排出量算入必須化
- 累積対年換算排出量の標準化もしくはGHG強度による算定
- 使用段階の算定に関する使用一次データの活用
- 流通中の製品からの報告年排出量を算定するための在庫アプローチ開発
- 製品の耐久性強化・長寿命化に関する開示要求追加

 出典:Greenhouse Gas Protocol, . *Scope 3 Standard – Standard Development Plan*, 20 December 2024.

© 2024 Zeroboard Inc.

Zeroboard

04

日本企業への影響可能性

© 2024 Zeroboard Inc.

日本企業への影響可能性ー全般とScope 1&3

- 組織バウンダリーは基本、財務報告と同一にする必要性
- できる限り金額ベースの排出原単位から、物量ベースの排出原単位、サプライヤーからの一次データの把握へシフトする努力が必要。最低、算定に用いた排出原単位ソースの記録が必要
- Scope 1, 2については全排出量を算定する必要。各その1%までの報告除外と、誤差範囲しか許容されない
- Scope 3は全排出量を推算もしくはホットスポット分析する必要。排出が極小でない限り、5%未満の猶予値に収まるようすべてのカテゴリーの算定を行う
- 中小企業は最も関連ある3カテゴリーの排出量の算定
- 中間製品の下流排出量の推定が不可能な場合、カテゴリー9, 10, 11, 12から除外可能だが、理由の説明は必要
- カテゴリー4, 9はラストマイル、帰路輸送を算入
- カテゴリー5, 12は廃棄物輸送を算入
- カテゴリー6はホテル宿泊、カテゴリー7はリモートワークを算入
- カテゴリー14はブランド・IP提供先を含む
- カテゴリー16にて、仲介排出量への対応が必要な組織も
- Scope 1, 3でもマーケット基準算定、削減貢献量、新低炭素エネルギー源が勘案される方向性（AMIの議論）も、従来のインベントリーと並列した形での開示を

© 2024 Zeroboard Inc.

ご不明な点・ご質問がございましたら、
お気軽にお問い合わせください

株式会社ゼロボード

〒108-6310

東京都港区三田三丁目5-27

住友不動産三田ツインビル西館10階

E-mail：tomoo.machiba@zeroboard.jp

© 2024 Zeroboard Inc.